

令和2年度 学校評価報告書

小樽市立桜小学校  
校長 水口 正紀

1 本年度の重点目標

互いに認め合い、自ら考え進んで行動する子どもの育成

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方針

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	国語・算数の勉強が「よくわかる」と回答する児童の割合を85%以上にする。	A	校内研修による授業改善、宿題・自学ノート・寺子屋等による放課後補充学習の活用により、基礎・基本の定着が図られ、到達目標が達成されている。	A
	特別支援教育の充実	校内支援委員会を充実させる。(年間5回以上実施する。)	A	校内支援委員会を活用して、特別支援学級の取り組みの充実と併せ、通常の学級にいる個別の支援が必要な児童への対応・支援の充実が進んでいる。すでに5回以上実施している。	A
	国際理解教育の充実	外国語専科教諭による授業公開を年1回実施する。	A	外国語の加配教員による担任へのフィードバックは常に行っている。コロナの影響で対外的な授業公開ができなくなったため、校内でのビデオを使った授業公開を3学期に実施する。	A
	理数教育の充実	「算数が好き」「理科が好き」と回答する児童を80%以上にする。	A	4年生以上の理科は専科教員が授業を行い、教材準備等の充実により、理科好きの児童が増えている。算数は、校内研修を通して、授業の活性化を図っている。児童アンケートにより達成を確認。	A
	情報教育の充実	プログラミング教育に関わる授業を4年生以上で年1時間以上実施する。	A	2学期から、プログラミングの授業を開始して、3学期中には4年生以上の全学級で実施する予定。手宮中央小の実践を学ぶプログラミング研修を1月中に実施する予定である。	B
	キャリア教育の充実	全学年でキャリアパスポートを作成する。	A	4月当初にキャリアパスポートの実施方法・保管方法などの確認を行い、予定通り全学年で作成している。	A
改善方針	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進が何よりも大切である。「小樽授業づくりの5つのステップ」を全学級が実践するように、校内研修を進めて行く。まずは、研究教科の算数を通して指導過程の学びを進めながら、深化充実させ、全教科へ広げていく。併せて、自学ノート・放課後学習について、家庭との連携を強化しながら、基礎基本の充実を図る。通常学級にいる支援の必要な児童への対応について、学校全体で対応できるように、研修と体制の確立を進める。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着が見られ、よろしいかと思います。</li> <li>・学校での勉強を楽しめる環境づくりに努めていただければと思います。</li> <li>・コロナ禍の中、児童・教職員が学習面で努力している様子がわかります。</li> </ul>				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	道徳に関する校内研修会を年間3回以上実施する。	A	学期に1回ずつ、実施しており、1・2学期は指導過程・評価に関する研修を行った。3学期は、3回目の研修としてビデオを利用した校内研究授業を実施する予定である。	A
	ふるさと教育の充実	小樽港内遊覧屋形船を活用し小樽の歴史を学ぶ機会を年1回実施する。	B	4年生で小樽港内遊覧屋形船を活用する予定であったが、コロナのために実施することができなかった。家族からの聞き取りやパソコンなどの調べ学習を中心に進めてきた。	B
	読書活動の推進	読書を全くしない児童の割合を5%未満にする。	A	週2回の朝読書の実践や休業中の家庭での読書の啓蒙により、到達目標は達成されている。	A
	体験活動の推進	校区内の清掃活動を年2回実施する。	B	全校一斉の校区内清掃活動を年2回予定していたが、コロナにより全校一斉の形では実施できなかった。学年ごとに、校外学習などと併せてゴミ拾いを行ってきた。	B
	コミュニケーション能力の育成	「言語活動に積極的に取り組んでいる」と回答する教師の割合を80%以上にする。	A	国語を中心に、言語活動を積極的に取り入れており、教職員学校評価の「言語活動の取組」では、到達目標を大きく超えている。	A
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「友だちのよいところを見つけている」と回答する児童の割合を80%以上にする。	A	おだやかな学級づくりをめざし、生活規律の徹底や温かな声かけを実践している。児童アンケートでは83%の達成率となっている。	A
改善方針	豊かな心の育成のために、おだやかな学校・学級づくりを進めてきた。落ち着いた学校生活を送らせるために「時を守り 場を清め 礼を正す」の精神を大切にしている。『時：チャイムスタート 場：靴箱への靴の入れ方 礼：挨拶』を切り口に、全教職員・全学級がこれだけしっかり守ろうというものを定め実践し、発展させていく。そのために、生徒指導委員会が中心となりPDCAサイクルを回しながら、全職員が共通理解・共通実践できるようにしていく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の育成、さらに期待しています。</li> <li>・道徳や生活指導は、根気よく継続的な取組が必要だと思います。頑張ってください。</li> <li>・マスク生活の中、実施できないことが多い中、自分で考え行動することの大切さに重きをおく指導をしていることは児童にとって良いことです。育って欲しい。読書はこのようなときに、強化して欲しい。</li> </ul>				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全学年で新体力テストを実施し、結果を分析し授業改善を図る。	A	全学年で新体力テストは実施済みである。コロナにより、マスクをつけながらの授業ではあるが、運動量の確保や興味関心を引く内容など、3密にならないような工夫をしながらの実践に努めている。	A
		食育の推進	全学年で食育の授業を実施する。	A	栄養教諭による食育の授業を進めている。栄養教諭がT1となり、担当がT2となって、児童の実態に合わせた楽しい授業を実践してくれている。	A
		健康教育の充実	児童向けの薬物乱用防止教室、職員向けのエビペン、AEDに関する研修会をそれぞれ年1回以上実施する。	A	エビペンを持参している児童が3名おり、食物アレルギーとエビペンの研修は4月早々に実施している。AEDや薬物乱用教室についても実施済みである。	A
改善方針		令和3年度も、マスクを着用しながらの日々が継続しそうです。安全第一を譲ることなく、「体力・運動能力の向上」「食育の推進」「健康教育」について、状況を見極めながら、推進していく事が大切だと考えている。まずは、学校・家庭共に、生活リズムを崩さないように連携を進めていくことが大切。コロナへの対応は学校運営委員会が中心となり、常に先を見通しながら、必要に応じて校内医や薬剤師とも連携を取りながら健やかな体の育成をすすめていく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も健全な体の育成に努めていただきたい。</li> <li>・コロナの中で対応、大変かと思いますが。安全第一でお願いします。</li> <li>・不自由な生活の中で苦労しているのがわかります。規則的な生活リズムの強化が必要に思います。</li> </ul>				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習強化週間を年3回以上設定する。	A	学期に一回ずつ、桜町中学校と連携して設定している。今年度は、全学年で学力テストにつながるような文章問題を週末課題として設定し、土日にじっくりと考えてくるようにした。	A
		学校と地域の連携・協働の推進	CSの資料をもとにした研修会を年2回以上実施する。	A	教職員間では、CSについての研修会を実施済み。地域・保護者への発信は、学校だより等を通して、今後進めて行く必要がある。	A
改善方針		家庭学習や安全に関わる学校と家庭の連携がここ数年で進んできていることが、保護者アンケートなどからも読み取れる。保護者アンケート、学校だより、学級だよりなどの発信と併せ、安心メールと学校ホームページを更に充実させていく。働き方改革の浸透など、現在の学校事情を丁寧に発信していきながら、学校と家庭がWINWINとなれるようなCSなど、学校と家庭・地域の連携を深めるための話し合いの場(PTA・評議委員会・小中連携委員会等)を設定して有効に活用していく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの中で集会等も困難で連携は色々難しい面があると思いますが、可能な限り顔を合わせる機会があればと思います。</li> <li>・家庭・学校の連携が進んでいることがわかりました。こんな時ですから、もっと強化して欲しい。</li> </ul>				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	中学校との小中連携会議を年5回以上実施する。	A	4回実施済みで、5回目を2月中旬に設定している。小樽の5つの視点について、具体的に取組んでおり、小中の連携は進んできている。	A
		教育環境の整備・充実	靴を入れるロッカーを全学年に設置する。	A	全学年設置済み。40人学級では教室が狭くなってしまうので、空き教室のロッカーなども使用しながら環境の整備を進めている。	A
		教職員の資質・能力の向上	全教職員が校外の研究会、研修会に年1回以上に参加する。	A	コロナの関係で、校外の研究会参加はほとんど実施できていないが、オンデマによる研修へは全教職員が参加している。オンデマによる研修は手軽さもあり、多数参加している教員も多い。	A
		学校運営の改善	「働き方改革が進んだ」と回答する教職員の割合を前年以上にする。	A	今年は、コロナにより精神的なストレスも含め、「多忙感」を感じている教職員は多かった。働き方改革の割合は、前年度と同程度であるが、コロナを含めて考えると改善は進んでいると考えられる。	B
		学校安全教育の充実	不審者対応訓練を含め、避難訓練を年3回以上実施する。	A	従来のように、体育館やグラウンドに一斉に集まる訓練は実施できなかったが、放送による一斉指導と教室における指導を組み合わせた避難訓練を実施した。	A
改善方針		働き方改革・小中一貫教育を進めるために、「いつ・どこで・誰が・どのように」とはつきりさせる必要がある。働き方改革については、校長が中心となり学校運営委員会で検討し、令和3年度スタート時に目標や大まかなスケジュールを設定して進められるように3学期に中に準備を進める。小中一貫教育は、2月の小中連携会議でグラウンドデザインを話し合い、3月に各校で提案できるように進めて行く。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一回中学校との連携は良いと思います。</li> <li>・小中連携や地域連携は大切なテーマだと思います。また、コロナの中での業務の効率化等も大変と思いますが、継続的な取組をお願いします。</li> <li>・小中の連携が前より進んでいるのが感じられます。</li> </ul>				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		高島プール、総合博物館をそれぞれ年1回以上利用する。	B	今年度はプールは中止。総合博物館の利用もできなかった。		B
改善方針		コロナ禍で社会教育との利用・活用が制限されているが、状況を見ながら、積極的に活用できるようにしていく。特に、CSを進めて行く中では、地域との連携や社会教育施設の利用・活用も大きな要素となってくると思われる。教頭の負担が大きくならないように、関わり方や進め方などについて、担当教諭と連携しながら進めて行く。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの中では仕方ないことと思います。博物館学芸員を招いて、出張講演会などはいかがでしょうか？</li> <li>・コロナ禍の一年、児童に今までしてきた行事など、いろいろ考え実施している先生たちのご苦労、工夫を感じました。</li> </ul>				